

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0891600017		
法人名	有限会社モリ・ケア・サービス		
事業所名	グループホームいわまの郷		
所在地	茨城県笠間市下郷6004-1 (電話) 0299-45-2433		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成21年1月28日

【情報提供票より】(平成20年9月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年7月28日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	8人, 非常勤 6人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月24日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	7	要介護2	2		
要介護3	5	要介護4	2		
要介護5					
年齢	平均 83.5 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅谷病院・八郷整形外科内科病院・菅谷歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な田園地帯に位置し、敷地内にはお茶飲みや外気浴を楽しめる大きなウッドデッキ、コスモス畑、野菜畑があり散歩や自家栽培などを通して四季の変化や五感を刺激する環境となっている。
職員は利用者の主体性を重視し、利用者一人ひとりの心によりそったケアサービスを目指すとともに、利用者が明るく笑顔で毎日を過ごせるようサービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全職員で取り組んでいる。 市から生活保護担当者が来訪し意見交換するなど改善している。 家族会を設立し、意見等をホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。 運営推進会議は平成18年に開催しただけでその後は開催していない。 職員の段階に応じた研修受講が期待されていたが改善していない。 重度化に伴う対応マニュアル及び災害時のマニュアルを作成するまでには至っていない。 自治会やグループホーム協議会への加入が期待されていたが未加入である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は全職員の意見を聞き自己評価を作成している。 外部評価の結果を全職員に配布し、全体会議で検討するとともに改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年に1度民生委員や元教育長、行政、職員により運営推進会議が開催されたが、それ以後開催されていないので外部評価や自己評価の結果を踏まえ2ヶ月に1回定期的に開催し、出された意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会の開催時や家族等の来訪時に意見や要望を聞き、ホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。 意見箱を設置するとともに無記名式の家族アンケートを実施し、家族等が意見を言い易い環境づくりを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>買い物や散歩などの外出時に挨拶を交わすだけでなく、地域のボランティアの人々による舞踊やリハビリ体操などで地域の人々と交流している。 自治会に加入していないので自治会に加入するとともに、市や老人会の各種行事に参加し、地域と交流の輪を広げることを期待する。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれあいを大切にしながら利用者が明るくゆったりと生活ができるよう、利用者本位の生活支援を行うことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に5つの理念を掲示し、ケアカンファレンス時など折に触れ理念の意義を確認するとともに、細やかなケアサービスの実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物や散歩などの外出時に挨拶を交わすだけでなく、地域のボランティアの人々による舞踊やリハビリ体操などで地域の人々と交流している。 自治会に加入していない。	○	自治会に加入するとともに市や老人会の各種行事に参加し、地域と交流の輪を広げることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全職員の意見を聞き自己評価を作成している。 外部評価の結果を全職員に配布し、全体会議で検討するとともに改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年に民生委員や元教育長、行政職員等により運営推進会議を開催したが、それ以後開催されていない。	○	外部評価や自己評価の結果を踏まえ2ヶ月に1回定期的に開催し、出された意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回市の生活保護担当者が来訪した際に気楽に意見交換ができる体制になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況に応じ随時電話で連絡を密にしている。 金銭管理は家族了解のもとホームで小遣い3万円を預かり、残金が5千円以下の時に領収書と金銭台帳のコピーを家族に送付している。	○	ホームの日常生活を掲載した「ホームたより」を作成し、利用者の暮らしぶりや行事予定、職員異動、ホームのトピックスなどを伝えることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時や家族等の来訪時に意見や要望を聞き、ホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。	○	意見箱を設置するとともに無記名式の家族アンケートを実施し、家族等が意見を言い易い環境づくりを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が2ユニットをローテーションで勤務している。 職員の離職は利用者の動揺に配慮して敢えて知らせず、利用者が不安にならないよう全職員で支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成計画を作成していない。外部研修は介護計画作成担当者だけの受講となっており職員の研修は行われていない。	○	運営者は職員のスキルアップのため、段階に応じた内部・外部研修計画を作成し、職員が受講しやすい環境や体制づくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入していないが、昨年より市社会福祉協議会主催の連絡協議会に運営者と職員が参加している。	○	グループホーム協議会に加入するとともに、他のホームと合同で勉強会や意見交換会などを開催し、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたり事前に見学や体験利用をしてもらっている。 急なケースの場合も、必ず管理者が家庭や施設を訪問し、十分な話し合いを行ったうえでサービスの利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な家事作業のほか、ホームの畑で職員と一緒に野菜作りや棚を備え付けるなど利用者と職員が相互に支え合い、利用者の経歴や能力を活かした支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の日々の表情や行動、会話のなかからだけでなく、家族等の意見や要望からも利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者は利用者や家族の意見を取り入れたうえで職員全員で定期的にカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の要望をきちんと把握したうえで6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。 利用者の状態をきちんと把握するため、3ヶ月に1度利用者のADL状況の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の暮らしぶりをまとめたDVDを無料で配布したり、通院支援や介護更新手続きを代行するなどのほか、家族の宿泊支援など要望にそって柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望にそってかかりつけ医を決定している。 利用者の健康状態を維持するため、協力医療機関を確保するとともに定期的な受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用相談時に終身利用できないことを説明し、納得したうえで利用を開始しているため、重度化や終末期に向けた方針やマニュアルの作成、関係者の話し合いまでには至っていない。	○	重度化に伴う意思確約書やマニュアル等を作成し、「看取りに関する指針」について関係者で話し合う機会をつくることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切に考え、利用者のプライバシーに配慮した言葉かけや対応に心がけている。 利用者の個人記録は事務室で一括管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調に配慮したうえで、できるだけ利用者の主体性を大切に希望にそった支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒にできる範囲で食事の準備や後片づけをしている。 職員はむせたり介助が必要な利用者の中に入り、一緒に食事を摂り適切に支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している	入浴日は基本的に週3日と決まっているが、利用者の希望や体調、医師の指示により変更するなど柔軟に支援をしている。 片方のユニットにひのき風呂を設置するほか、廊下の片隅に足湯コーナーを設けるなど入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、一人ひとりの能力を發揮できる場面づくりを心がけている。 市からの依頼で燈籠作りを行うなど、いろいろな楽しみごとを提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に注意をしながら、買い物に出かけたり、ウッドデッキでの外気浴や田園を散歩しながらの花摘みを楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険防止のため洗濯室のみ鍵をかけている。 全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、施錠することなく玄関やベランダなどに自由に入出入りしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理責任者を決め4月に自主訓練を行ったが、消防署の指導のもとに行う避難訓練の実施記録が平成18年度分しか残っていない。	○	消防署の指導のもと、地域の人々と協同で避難訓練を実施するとともに、協力体制を構築することを期待する。 有事に備え水や食糧、毛布などを準備しておくことも期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態に配慮した食事量や調理方法を取り入れている。 食事や水分の摂取状況は毎日記録し、利用者一人ひとりの状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の草花と装飾品を飾っている。 廊下は広く、車椅子の利用者が自由に移動できるスペースを確保するとともに、手すりは利用者の身長に配慮し低く設置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が安心して暮らせるよう、以前使用していた家具や仏壇などが持ち込まれている。 壁には家族の写真や表装を飾り、利用者の思いにそった居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。